

汎用検索エンジン MetaLib を使った 日本語医学文献情報の提供について

今野 穂

札幌医科大学附属図書館

背景： 札幌医科大学（以下、「本学」と言う）は 2002 年 7 月より北海道内在住の地域医療従事者等の支援を目的とし、Ex Libris 社の MetaLib/SFX を用い、PubMed 検索結果からの文献複写サービスや Open Access Journal へのリンクを提供してきたが、日本語医学文献検索サービスは地域医療従事者からの要望は高いものの未整備となっており、本学地域医療支援サービスの課題となっていた。

目的： 国内発行の雑誌記事検索サービスの提供を通し、北海道内地域医療従事者の支援を行うとともに、本学地域医療支援サービスの拡充をはかる。

方法： ①検索対象データベースは国立国会図書館提供の「NDL-OPAC 雑誌記事索引」および（株）メテオインターゲートの「Medical Online」の 2 つをターゲットとした。②検索インタフェースは Ex Libris 社の汎用検索エンジンである「MetaLib（メタリブ）」を用いた。③ターゲット・データベースとのセッションはターゲット側で現状採用されている HTTP とするとともに、検索結果データの取得も Web Scraping（HTML 解析）の手法を用いた。④検索結果データは MetaLib 側で処理を加え、OPAC 参照および文献複写申し込みなど他サービスへのリンクを提供する SFX へ継承できるようにした。

結果： ①MetaLib によるターゲットの検索から SFX へのサービス引渡しについては当初の目的を果たすことができたが、ターゲットとのセッションについては HTTP、Web Scraping を採用しており、ターゲット側の変更に伴う MetaLib のメンテナンスが課題として残された。②2005 年 2 月 1 日の「NDL-OPAC 雑誌記事索引」公開以降、新たに 86 名のアカウント発行の申請があり（延べアカウント取得者数は 1,081 名）、新たな需要の発掘の点では評価できる結果となったが、実際の利用状況や利用した結果の満足度については採取できておらず、今後、ログの解析やアンケート調査を実施するなどして利用実態の把握を行う必要がある。

結論： 本学提供サービスは PubMed や Google Scholar では OpenURL などの対応機能が実装されており、容易に実現可能であるが、国内で一般公開されているシステムで対応機能を実装しているものはなく、前例のない試みとなった。異なったシステム間でシームレスに情報やサービスを提供する手法は学術情報提供活動において今後益々重要になると思われる。本学での試みと成果は新たなサービス形成手法や技術確立にむけた議論の試金石として供されなければならないと考える。